

2002年10月30日

2002-218

高輝度ポータブル 液晶プロジェクター 3機種を発売

日立製作所 ユビキタスプラットフォームグループ（グループ長&CEO：百瀬次生）は、高輝度ポータブル液晶プロジェクター「CP-X995J」を11月14日から、「CP-X885J」「CP-X880J」を11月18日から発売します。

今回発売する「CP-X995J」は、1.3型の高開口率透過型液晶パネルを使用し4500ANSIルーメン（）、「CP-X885J」「CP-X880J」は1.0型を使用し3500ANSIルーメン（）（「CP-X880J」は3000ANSIルーメン）を実現しました。

さらに、「CP-X885J」「CP-X880J」は、ワイヤレス&ネットワーク モジュール（WNM-80：専用オプション）を装着することにより、PCとの接続をワイヤレスで可能にするほか、PC画面を4台まで同時に表示できるなど多彩な機能を装備し、様々な用途に活躍します。

また、現行機種の「CP-SX5500J」「CP-X990J」の価格変更、「CP-S317J」の明るさ仕様の改定を行います。

：社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 データプロジェクター部会で定めた液晶プロジェクター測定方法・測定条件に関するガイドライン（1999年6月）に基づいています。

型式及び価格

型式	概略仕様	メーカー希望 小売価格	発売日	国内月産台数
CP-X995J	XGAリアル対応、4500ANSIルーメン 重さ：6.5kg	¥1,200,000 （税別）	11月14日	300台 （当初）
CP-X885J	XGAリアル対応、3500ANSIルーメン 重さ：5.7kg	¥998,000 （税別）	11月18日	300台 （当初）
CP-X880J	XGAリアル対応、3000ANSIルーメン 重さ：5.7kg	¥898,000 （税別）	11月18日	300台 （当初）

価格改定

型式	概略仕様	メーカー希望小売価格	
		改定前	改定後
CP-SX5500J	S-XGAリアル対応 1500ANSIルーメン	¥1,100,000 （税別）	¥898,000 （税別）
CP-X990J	XGAリアル対応 3500ANSIルーメン	¥1,200,000 （税別）	オープン 価格

仕様変更

型式	仕様	
	改定前	改定後
CP-S317J	1500ANSIルーメン	1600ANSIルーメン

液晶プロジェクターの2002年度の市場規模は、全世界で約160万台(前年比120%)、そのうち日本国内は約13万台(前年比108%)と予測されます。液晶プロジェクターはパソコンやAV機器と接続し、企業での会議・研修、各種プレゼンテーションや学校教育、家庭など幅広い用途で活用されており、「高輝度・高精細・高機能化」が求められています。

今回発売する3機種は、授業やプレゼンテーションをインパクトのある鮮明な大画面で実現する豊富な機能を備えながら、会議室・教室間の持ち運びも可能な高輝度液晶プロジェクターです。

<「CP-X995J」の主な特長>

独自開発のプログレッシブLSI搭載

「黒伸張機能」、「ノイズリダクション機能」などビデオ画質の再現性を向上
デジタルRGB、HDTV対応のコンポーネント端子をはじめRGB3系統、VIDEO3系統を装備した豊富な入力端子搭載

「水平・垂直キーストン(台形歪み)補正機能」

スクリーンの本体位置との高低差によって起こるキーストン(台形歪)補正は勿論、スクリーンの正面に設置できない時の左右のズレによって起こるキーストンの補正も可能

<「CP-X885J」「CP-X880J」の主な特長>

高輝度・軽量化

1.0型液晶パネルを使用し、持ち運びが可能なサイズながら3500ANSIルーメン(「CP-X880J」は3000ANSIルーメン)を実現

1.5倍ズーム・短焦点投写レンズ

画面サイズ60型を表示する際1.8mで投写可能。また、1.5倍ズームレンズにより大会議室から中小会議室での使用も可能になり設置性が拡大
操作性を向上

・ジョグダイヤルにより選択した入力信号が、インジケータで一目で確認可能

・「オートキーストン*」「オートサーチ」「オートアジャスト」これら3つの機能をボタンひとつで調整し、わずらわしい設置準備が簡単にできる「ワンタッチボタン」搭載

* ワンタッチボタンでは縦方向のキーストンのみ補正可能

他社商標注記

- ・VGA、XGAは、米国IBM corporationの登録商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

取扱事業部

株式会社 日立製作所 ユビキタスプラットフォームグループ

デジタルメディア事業部 プロジェクタ本部 商品企画部

〒244-0817 横浜市戸塚区吉田町292番地

TEL 045-866-6305(ダイヤルイン) [担当:檀上(だんじょう)]

日立液晶プロジェクターホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/proj>

報道関係問合せ先

株式会社 日立製作所 ユビキタスプラットフォームグループ 事業統括本部 広報渉外部

〒105-8430 東京都港区西新橋二丁目15番12号

TEL 03-3506-1573(ダイヤルイン) [担当:松岡]

CP X995Jの主な仕様

型式	CP X995J
投写方式	3原色透過型液晶パネル×3枚、1レンズ、3原色光シャッター方式
液晶パネル	1.3型液晶パネル 3枚使用 横1,024×縦768(786,432ドット)
投写レンズ	F1.7~F2.3 f=49~64mm
光源ランプ	275W UHB (Ultra High Brightness)ランプ
明るさ	4500ANSIルーメン*
色再現性	フルカラー(1677万色)
解像度	水平1,024ドット×垂直768ライン
ズーム	電動ズーム(1:1.3)
フォーカス	電動フォーカス
映像上下/左右反転	有り
スピーカー	1.2W+1.2W(ステレオ)
RGB入力	デジタルRGB 1系統:DVI アナログRGB 2系統:15ピンミニD-sub オーディオ 2系統:ステレオミニジャック端子
ビデオ入力	コンポーネント 1系統:RCAピンジャック端子 コンポジットビデオ 1系統:RCAピンジャック端子 Sビデオ 1系統:S端子 オーディオ 1系統:RCAピンジャック(L/R)
RGB出力	アナログRGB 1系統:15ピンミニD-sub×1
オーディオ出力	オーディオ 2系統:ステレオミニジャック端子
コントロール端子	15ピンミニD-sub端子×1
リモコン/マウス用USB端子	Bタイプ×1
電源	AC100V(50/60Hz)
消費電力	440W
外形寸法	幅289mm×高さ139mm×奥行350mm(突起部含まず)
質量	6.5kg
内装付属品	レーザーポインター付リモコン、単3乾電池×2、電源コード、RGBケーブル、コンポーネントケーブル、マウスケーブル(PS/2)、キャリングバッグ

(*) 社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 データプロジェクター部会で定めた液晶プロジェクター測定方法・測定条件に関するガイドライン(1999年6月)に基づいています。

CP - X885J / CP - X880J 主な仕様

型式	CP X885J	CP - X880J
投写方式	3原色透過型液晶パネル×3枚、1レンズ、3原色光シャッター方式	
液晶パネル	1.0型液晶パネル 3枚使用 横1,024×縦768(786,432ドット)	
投写レンズ	F1.7～F2.4 f=31～46mm	
光源ランプ	275W UHB (Ultra High Brightness) ランプ	
明るさ	3500ANSIルーメン*	3000ANSIルーメン*
色再現性	フルカラー(1677万色)	
ズーム	電動ズーム(1:1.5)	
フォーカス	電動フォーカス	
映像上下/左右反転	有り	
スピーカー	1.0W+1.0W(ステレオ)	
RGB入力	デジタルRGB 1系統:DVI アナログRGB 2系統:15ピンミニD-sub×1 BNC端子×1 オーディオ 2系統:ステレオミニジャック端子	
ビデオ入力	コンポーネント 1系統:RCAピンジャック端子 BNC端子(RGB兼用) コンポジットビデオ 1系統:RCAピンジャック端子 Sビデオ 1系統:S端子 オーディオ 1系統:RCAピンジャック(L/R)	
音声入力	RCAピンジャック端子 1系統:RGB/ビデオ共通	
RGB出力	アナログRGB 1系統:15ピンミニD-sub×1	
オーディオ出力	オーディオ 1系統:ステレオミニジャック端子	
コントロール端子	15ピンミニD-sub端子×1	
リモコンマウス用USB端子	Bタイプ×1	
ワイヤードリコン端子	ステレオミニジャック端子×1	
電源	AC100V(50/60Hz)	
消費電力	430W	
外形寸法	幅390mm×高さ120mm×奥行290mm(突起部含まず)	
質量	5.7kg	
内装付属品	レーザーポインタ付リモコン、単3乾電池×2、電源コード、RGBケーブル、AVケーブル、USBマウスケーブル、RS232Cアダプタ、電源プラグアダプタ、キャリングバッグ	

(*) 社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 データプロジェクト部会で定めた液晶プロジェクター測定方法・測定条件に関するガイドライン(1999年6月)に基づいています。

以 上

【CP - X995】の主な特徴】

1. 高輝度をコンパクトに実現

1. 3型高開口率透過型液晶パネル及び光源ランプに275W UHB(高圧水銀)ランプを採用し、投写レンズおよびマルチレンズ等光学系の最適化設計により、4500ANSIルーメンを実現しました。

また、高輝度を実現しながら質量6.5kgと軽量化されており、持ち運びも可能です。

2. 独自開発「プログレッシブLSI」採用によりビデオ画質の再現性を向上

チラツキのない高画質な映像を再現「プログレッシブ・スキャン」

独自のプログレッシブLSIを搭載し1/60秒毎に全ての走査線を送る順次走査(プログレッシブ)に変換することにより高解像度でちらつきのないビデオ映像を実現しました。

また、3フィールド分の情報を使用し動画に適応したプログレッシブ変換を行うことにより、動きが滑らかな映像が表示可能です。

クリアな映像を実現する「ノイズリダクション機能」

フレーム間のノイズ成分を自動検出し、ノイズのみを低減することにより解像度を劣化させることなくクリアなビデオ映像を実現しました。

ハイコントラストな映像を再現する「黒伸張機能」

画面全体の明るさ(黒信号の占める割合)を検出し、映像信号振幅の最大20%レベル以下の信号を黒信号化することによりメリハリの効いたハイコントラストな映像を再現します。また、検出した画面全体の明るさデータにより黒信号化するレベルを自動補正することで暗い画面での黒つぶれを防止しています。

3. 映画本来のスムーズな映像を実現する「フィルムモード」

映画は24コマの静止画により構成されており、映画ソースを60フィールド(30フレーム×2)で構成されているNTSCテレビ信号として再生するためには24コマを60フィールドに変換する必要があります。この変換方式として、フィルムの1コマ目を2フィールド、2コマ目を3フィールド、3コマ目を2フィールド、.....以降24コマ目まで2-3-2-3を繰り返すことにより60フィールドを作り出す「2-3プルダウン方式」が用いられています。

「フィルムモード」ではこの「2-3プルダウン方式」を自動検出し60フィールド全てを静止画として処理することで色ずれのない原画に忠実な映像を再現します。

4. 「オートアジャスト機能」

従来 信号源となるパソコンによっては、液晶プロジェクターで投写する際、画面位置・サイズ等が微妙にずれて画面が欠け、一部表示できないなどの現象が生じる場合があり、最適画面に調整するためにはユーザーがマニュアル操作で位置・サイズ・位相等の微調整を行う必要がありました。本製品では新開発のICと独自のソフトウェアを採用し、これらの画像調整をリモコンの「AUTO」ボタンを押すだけで自動的に行うことができます。

5. 「リモコンマウス機能」

付属リモコンを使って パソコンのマウス操作ができるので、アシスタントがいなくても一人でプレゼンテーションができます。その上USB端子を装備していますので、オプションのUSBケーブルでパソコンのUSB端子と接続すればUSBマウスとしても動作します。

USBマウスは電源を入れたままで接続の脱着が可能で、必要なときだけ「リモコンマウス機能」を使うことができます。

6. 短焦点ワイドコンバージョンレンズ WL - 201 (オプション)

本レンズを装着すると、画面サイズ60型を表示する際の距離が1.8m(レンズ非装着時2.2m)、100型を表示する場合は3.0m(レンズ非装着時3.7m)の距離で投写可能です。

【CP - X885J/CP - X880Jの主な特徴】

1. 高輝度をコンパクトに実現

1.0型高開口率透過型液晶パネル及び光源ランプに275W UHB(高圧水銀)ランプを採用し、投写レンズ等光学系の最適化設計により、3500ANSIルーメンを実現しました。

また、高輝度を実現しながら質量5.7kgと軽量化し、持ち運びも可能です。

CP - X880Jは3000ANSIルーメン

2. 1.5倍ズーム・短焦点投写レンズ

短焦点レンズの採用により、1.8mの投写距離でスクリーンサイズ60型を表示することが可能です。また、1.5倍ズームレンズ採用により設置範囲が広がります。教室・小会議室などの投写距離が確保できない場所でも容易に大画面プレゼンテーションが行えます。またスクリーンとプロジェクタ - の距離が短いため、机上の余分なスペースも大幅に縮小され、会議室のスペース利用効率も向上します。

3. 使いやすさを追求した操作性

ジョグダイヤル

本体にあるダイヤルを回転させるだけで、入力信号を簡単にセレクトできるジョグダイヤルを採用しました。



ワンタッチボタン

以下の3つの機能をボタンひとつで調整します。

「オートキーストン」：縦方向の台形歪みを本体の傾きを検知して自動補正

「オートサーチ」：入力信号を自動検知して映像を表示

「オートアジャスト」：自動的に画面サイズ・位置などを自動調整



4. ワイヤレス&ネットワーク モジュール WNM-80 (オプション) により PCとワイヤレス接続が可能

ワイヤレスプレゼンテーション

Fine (鮮明) から Rough (軽い) まで画質を任意で選択し表示できます。

LANによるプロジェクターコントロール

LAN (無線LAN: IEEE 802.11b、有線LAN: 802.3/100BASE-TX) により入力信号切替などネットワーク経由でWebブラウザを使って、直接PCから操作することが可能です。

複数台のPC画面を同時表示できるマルチ画面

ワイヤレスで複数のPCとのネットワークを構築し、最大4台までのPC画面を同時に表示することが可能です。接続しているPCの切り替えや画面表示の操作などもPC画面から簡単に行えます。

PCレス

あらかじめPCからPCカードにJPEG方式などに変換したデータを保存しておけば、ワイヤレス&ネットワークモジュールにカードを挿入することで、PCなしでプレゼンテーションも可能です。

画面保存機能

表示した画面データ*をWNM-80のメモリー(RAM)に一時保存できるので、プレゼンテーション終了後など再表示が可能です。また、保存した画像データをPCにダウンロードすることも可能です。

*400kBの画面データであれば約20枚保存可能。



5. さまざまな用途で活躍する設置性

手軽にランプ交換が可能: 本体上面のランプドアを取り外すことで手軽に行えます。

BNC端子を装備: イベント会場などの映像ソースが本体から遠い場合、長距離BNCケーブルの接続が可能です。

前面排気: 本体内部の排気を前面から行います。

6. 使いやすさがさらに向上した「リモコンマウス機能」

付属のUSBマウスケーブルを接続することにより、リモコンを使ってプレゼン資料のページ送り/戻し等が簡単に行えるので、アシスタントがいなくても一人でプレゼンテーションができます。USBマウスケーブルは電源を入れたままで接続の脱着が可能ですので、必要なときだけ「リモコンマウス機能」を使うことができます。

また、リモコンケーブル(別売)をつなぐことができるので、リモコンの赤外線が受光しにくい設置場所でも確実に操作可能です。

7. 長焦点レンズ LL-401 (オプション)

オプションとして、長焦点レンズを用意しています。本レンズを装着すると、画面サイズ60型を表示する際の投写距離が3.0m(レンズ非装着時1.8m)、100型を表示する場

合では、4.9m(レンズ非装着時3.0m)の距離で投写可能となります。

【3機種共通の主な特徴】

1. 静音化設計

ランプ熱を効率的に排気し、耳ざわりなファン騒音を抑える静音モードを採用。暗い部屋など騒音が気になる場所で使用する際に適しています。

* 静音モード時の明るさ : 約20%減

2. 「水平・垂直キーストン(台形歪み)補正機能」

従来の上下のズレによるキーストン補正は勿論のこと、スクリーンの正面にプロジェクターを設置できない時など(右図参照)に生じる左右のズレによるキーストン補正機能を搭載しました。高次補完することで縦線部分がギザギザになることなくスムーズな映像を再現します。

3. HDTV等に対応した豊富な入出力端子を装備

本機は、パソコン用デジタルRGB端子の標準装備をはじめ、パソコン入力端子3系統(デジタル:1系統、アナログ:2系統)、ビデオ入力端子はコンポジット(RCA端子×1)、S端子、コンポーネント端子(RCA端子×3)の3系統装備し、HDTV(1080i/1035i/720p)、SDTV(480p/480i)をはじめ、NTSC、PAL、SECAMの全世界のビデオ信号に対応しています。さらにRGB出力端子(アナログ)を装備しているため、デスクトップパソコンを液晶プロジェクターに接続する場合、分配機を使わなくてもパソコンのディスプレイに同時にモニタリングが可能です。

4. 「マイスクリーン機能」

本体にあらかじめ画像の一部をトリミングして取り込んでおいた会社のロゴマークや製品名などの静止画や、ビデオなどの動画を初期画面やブランク機能選択時に表示できます。授業・プレゼンテーションの開始前や資料の変更時の演出が可能です。

5. 「PinP(Picture in Picture)機能」

パソコン画像の中にビデオ入力の画像を子画面として表示できます。子画面は、大/小2段階の大きさを選択でき、表示位置も四隅から選択できます。

パソコン画面を使った『TV会議』で、発表者の顔や補足資料のビデオ画像などを子画面に表示でき、静止画面だけでは表現出来ない効果的なプレゼンテーションが行えます。

6. 「部分拡大機能」、「フリーズ機能」

画面の一部分を縦・横 等倍から4倍(面積比16倍)まで自由に拡大できる「部分拡大機能」を搭載しました。文字サイズの小さい表計算ソフトによるプレゼンテーションなどで、特に説明したい部分を簡単に拡大表示でき、見やすくインパクトのある説明が可能です。

また、プレゼンテーション時にパソコン・ファイルの入れ替え等を行う際に表示画面を記憶して止める「フリーズ機能」により、準備した次画面にスムーズに切り替えることができます。

以上

このニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。
発表日以降に変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。
